

誓願寺

世阿弥作

季は	地は	後	前
春	京都	ワキ シテ 和泉式部	ワキ シテ 一遍上人 里女
		前に同じ	

「教への道も一声の。く。御法を四方に弘めん。

「是は念佛の行者一遍と申す聖にて候。我此度三熊野に参り。一七日参籠申し。証誠殿に通夜申して候へば。あらたに靈夢を蒙りて候。六十万人決定往生の御札を。普く国土に弘めよとの靈夢にまかせ。まづ都へと志して候。

道行
「弥陀頼む。願ひも三つの御山を。く。今日立ち出づる旅衣。紀の関守が手束弓。出で入る日数重なりて。時もこそあれ春の頃。花の都に着きにけり。く。

ワキ詞
「急ぎ候ふ程に。是は早都誓願寺に着きて候。告にまかせて札を弘めばやと思ひ候。有難や実に仏法の力とて。貴賤群集の色々に。袖を連ね踵をついで。知るも知らぬもおしなべて。念佛三昧の道場に。出でに入る人の有難さよ。

シテサシ
「所は名におふ洛陽の。花の衣の今更に。心は空に

墨染の。

ワキ 「夕べの鐘の声々に。称名の御法。

シテ 「鳧鐘の響き。

ワキ 「聴衆の人音。

シテ 「軒の松風。

ワキ 「おのれくと。

シテ 「かはれども。

地 「弥陀頼む。心は誰も一声の。く。内に生まる、

蓮葉の。濁りにしまぬ心もて。何疑ひの有るべき。

有難や此教へ。洩らさぬ誓ひ目のあたり。受け悦

ぶや上人の。御札をいざや保たん。く。

シテ 「如何に上人に申すべき事の候。

ワキ詞 「何事にて候ふぞ。

シテ 「此御札を見奉れば。六十万人決定往生とあり。さてく六十万人より外は往生に漏れ候ふべきやらん。返すぐとも不審にこそ候へ。

ワキ

「実によく御不審候ふ物かな。是は三熊野の御夢想

に四句の文有り。其四句の文の上の字を取りて。

証文の為めに書き付けたり。たゞ決定往生南無阿

弥陀仏と。此文ばかり御頼み候へ。

シテ 「さてくく四句の文とやらんは。如何なる事にて有るやらん。愚痴の我等に示し給へ。

ワキ詞 「いでくく語つて聞かせ申さん。六字名号一遍法。

十界依正一遍体。万行離念一遍証。人中上々妙好

華。此四句の文の上の字なれば。六十万人とは書きたるなり。

シテ 「今こそ不審春の夜の。闇をも照らす弥陀の教へ。

ワキ 「光明遍照十方世界に。漏るゝ方なき御法なるを。

僅かに六十万人都と。人数をいかで定むべき。

シテ 「さてはうれしや心得たり。此御札の六十万人。其

人数をばうち捨てゝ。

ワキ 「決定往生南無阿弥陀仏と。

シテ 「唯一筋に念ずならば。

ワキ 「それこそ即ち決定する。

二人 「往生なれや何事も。皆うち捨てゝ南無阿弥陀仏と。

地 「称ふれば。仏も我もなかりけり。く。南無阿
弥陀仏の声ばかり。至誠心深心廻向。発願の鉢の
声。耳に染みて有難や。誠に妙なる此教へ。十声
一声数分かで。悟りをも迷ひをも。迎へ給ふぞ有
難き。さる程に夕陽雲にうつろひて。西にかけろ
がん。

ロング地

シテ 「早更け行くや夜念佛の。聴衆の眠り覚まさんと。
鉦うち鳴らし念佛す。

「有難や五障の雲のかゝる身を。助け給はば此世よ
り。二世安樂の国に早。生れ行かんぞ嬉しき。

地 「實に安樂の国なれや。安く生るゝ蓮葉の。台の縁
ぞ誠なる。

シテ
「有難やく。さぞな始めて弥陀の国。涼しき道ぞ
頼もしき。

地 「頼みぞまこと此教へ。或は利益無量罪。

シテ
「又は余經の後の世も。

地 「弥陀一教と。

シテ
「聞く物を。

地 「有難やく。八万諸聖教。皆是阿弥陀仏なるべし。

此御本尊も上人も。唯同じ御誓願寺ぞと。仏と

上人を。一体に拝み申すなり。

シテ詞
「いかに上人に申すべき事の候。

ワキ 「何事にて候ふぞ。

シテ
「誓願寺と打ちたる額をのけ。上人の御手跡にて。

六字の名号になして賜はり候へ。

ワキ 「是は不思議なる事を承り候ふ物かな。昔より誓願

寺と打ちたる額をのけ。六字の名号になすべき事。
思ひもよらぬ事にて候。

シテ「いや是も御本尊の御告と思し召せ。

ワキ「そもそも御本尊の御告とは。御身は何くに住む人ぞ。

シテ「わらはが住家はある石塔にて候。

ワキ「不思議やなあの石塔は。和泉式部の御墓とこそ聞
きつるに。御住家とは不審なり。

シテ「さのみな不審し給ひそよ。我も昔は此寺に。值遇

の有れば澄む水の。春にも秋や通ふらし。

地「結ぶ泉の自らが。名を流さんも恥かしや。よしそ

れとても上人よ。わが偽りは亡き跡に。和泉式部
は我ぞとて。石塔の石の火の。光りと共に失せに
けり。／＼。（申入）

ワキ詞

「仏説に任せ誓願寺と打ちたる額をのけ。六字の名
号を書き付けて。仏前に移し奉れば。

歌「不思議や異香薰じつゝ。／＼。花降り下り音楽の。
声する事の新さよ。是に付けても称名の。心一つ
を頼みつゝ。鉦打ち鳴らし同音に。

ワキ
「南無阿弥陀仏弥陀如来。

後ジテ

「あら有難の額の名号やな。末世の衆生濟度の為め。

仏の御名を顕はして。仏前に移す有難さよ。我
も仮なる夢の世に。和泉式部といはれし身の。仏
果を得るや極楽の。歌舞の菩薩となりたるなり。

二十五の。

地 「菩薩聖衆の御法には。紫雲たなびく夕日影。

シテ
「常の灯影清く。

地 「さながらこゝぞ極楽世界に。生れけるかと有難さ
よ。

地クリ
「そもそも当寺誓願寺と申し奉るは。天智天皇の御
願。御本尊は慈悲万行の大菩薩。春日の明神の御
作とかや。

シテサシ
「神と云ひ仏と云ひ。唯是れ水波の隔てなり。

地 「然るに和光の影広く。一体分身顕はれて。衆生濟
度の御本尊たり。

シテ
「されば毎日一度は。

地
「西方淨土に通ひ給ひて。 来迎引摶の。 誓ひを顯は
しあはします。

クセ
「笙歌遙かに聞ゆ。 孤雲の上なれや。 聖衆来迎す。
落日の前とかや。 昔在靈山の。 御名は法華一仏。
今西方の弥陀如來。 慈眼視衆生顯はれて。 婆婆示
現觀世音。 三世利益同一体。 有難や我等が為めの
悲願なり。

シテ
「若我成仏の。 光りを受くる世の人の。

地
「我力には行き難き。 御法の御舟の水馴棹。 さゝで
も渡る彼岸に。 至りくして樂しみを。 極むる國の
道なれや。 十惡八邪の。 迷ひの雲も空晴れ。 真如
の月の西方も。 こゝを去る事遠からず。 唯心の淨
土とは。 此誓願寺を拝むなり。

シテ
「歌舞の菩薩もさまぐの。

地
「仏事をなせる心かな。 (序の舞)

シテ「ひとり猶。仏の御名を尋ね見ん。

地「各帰る法の場人。法の場人。法の場人の。

シテ「実にも妙なる称名の数々。

地「虚空に響くは。

シテ「音楽の声。

地「異香薰じて。

シテ「花降る雪の。

地「袖をかへすや返すぐも。貴き上人の利益かなと。

菩薩聖衆は面々に。御堂に打てる六字の額を。皆
一同に礼し給ふは。新なりける奇瑞かな。